# 広報ふっさ

FUSSA

市の鳥・シジュウカラ

平成22年(2010年)

**2月1日　No. 800**

発行/福生市　編集/企画財政部秘書広報課
〒197-8501 福生市本町5
☎042-551-1511（市役所代表）
毎月1日・15日発行

ホームページ http://www.city.fussa.tokyo.jp/


**今号の主な記事**


2面嘱託職員募集　3面高額医療・高額介護合算療養費制度について　5面身体障害者手帳に肝機能障害が追加されます
6面景観フォーラムを開催します　7面福生市学校サポートチーム研究発表会　8面交通災害共済に加入しましょう


## 郷土資料室企画展示「福生の成り立ちと人々のあゆみ」

福生市は今年、市制40周年を迎えます。今回の企画展示では、福生が歩んだこの数千年の歴史を、郷土資料室が収蔵する貴重な資料から紹介します。

**期間** 2月6日(土)～4月18日(日)
**休館日** 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日休館)
**問合せ** 郷土資料室☎530・1120

**あかざ**

昭和21年（1946)、十数人の有志によって福生の町の文化向上を目指すため、「あかざ社」という新しい会が発足しました。この会の同人誌が「あかざ」です。19号まで発行され、文学の創作と研究を目的としていました。

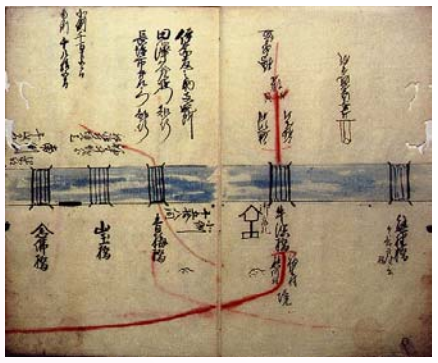
**元亨二年銘 板碑**
**（げんこうにねんめい いたび）**

板碑とは中世の供養塔のことで、現在市内では69基が確認されています。

この元亨二年(1322)銘板碑は、熊川地区の旧家から出土しました。

**長沢遺跡出土土器**
**（ながさわいせきしゅつどどき）**

長沢遺跡は今から4, 000年程前、縄文時代中期の集落遺跡です。福生消防署付近に広がるこの遺跡は、現在までに9回の発掘調査が行なわれました。出土土器は派手な装飾を施した勝坂式土器と、渦巻き文様が特徴的な加曾利Ｅ式土器が中心となっています。



**玉川御上水路控(たまがわごじょうすいろひかえ)**

玉川上水は江戸時代の承応2年(1652)、江戸住民の飲料水確保のため開削されました。

この資料には、玉川上水取水口の羽村から、四谷大木戸までの橋・分水・高札の設置場所などが記載されています。

**熊川地区出土銭**
**（くまがわちくしゅつどせん）**

平成7年（1995)、市内熊川内出地区で中世の銭貨5, 075枚が出土しました。

最も古いものは唐の通貨「開元通宝」(621年初鋳)で、最も新しいものは琉球の通貨「世高通宝」(1461年初鋳)です。16世紀後半に埋蔵されたと考えられるこの銭貨は、この地域の有力者が埋蔵したものでしょう。

**牛浜出水図(うしはましゅっすいず)**

この絵巻の作者は、文久4年(1864)に没した藤雲嶺(とううんれい)という寺子屋の師匠です。

安政6年(1859)に牛浜地区を襲った大洪水の惨状を後世に伝えようと、彩色を施して絵図を完成させました。当時の農民の暮らしぶりがよく伝わってくる貴重な資料です。

### 福生の歴史

現在、人口約6万人の福生市の歴史は縄文時代に始まります。市内の不動尊遺跡（約8, 000年前)や長沢遺跡（約4, 000年前)から土器や住居跡が発見されており、ここで生活した人々が福生に来た最初の人々でしょう。

鎌倉時代に入ると、永昌院や福生院に供養塔である板碑が遺されています。11世紀に武蔵七党・西党の平山氏が福生村を支配したと伝えられ、室町時代には、八王子城主の北条氏照の支配下となりました。

江戸時代になると福生村は幕府領、熊川村は幕府領と旗本領となり、幕末まで続きます。その間、承応2年(1653)には玉川上水が開削されました。

明治時代、福生は養蚕(ようさん)業や酒造業を地場産業とする農村として発展し、昭和にかけて青梅鉄道・五日市鉄道・八高線が開通したことにより、西多摩の玄関口となり商工業の中心となっていきました。

昭和15年（1940)には福生村と熊川村の合併により福生町が誕生します。その後、福生町は昭和45年（1970)に市制を施行し、福生市の誕生となりました。

### 広報ふっさ紙面にＳＰコードを掲載しています

目の不自由な方の情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を、広報ふっさの紙面に掲載しています。ＳＰコードは専用読取装置を使うことで、コードに記録されている文字情報を音声で聞くことができます。

毎月1日号の奇数面の記事をそれぞれ抜粋してコード化し、触って位置がわかるように半円状の切り込みを入れています。

**問合せ** 秘書広報課広報広聴係☎551・1568

### 「広報ふっさ」800号

この「広報ふっさ」が発行800号を迎えました。時代の変化とともに、体裁もレイアウトも変わりました。また、その間にホームページの開設もありましたが、その重要性はますます高まっていると感じています。

この800号の原稿を書くにあたり、昭和32年9月に発行された創刊号を取り寄せてみました。

当時はまだ「福生町」で、町長は秋山誠一氏、町議会議長は田村利一氏（のちに都議会議員）で、お二人が広報発行に寄せて寄稿されております。お二人とも「広報で町のいろいろな事業や行事などをお知らせし、町民の理解と協力をお願いしたい」と述べておられます。

それから現在まで月日が流れ、53年が経過しました。自治体の自立、すなわち自分たちのまちは市民全体で創っていくということを、今は「協働」という言葉で表わしていますが、このスタンスは今も昔も変わりはないのだと感じた次第です。

市は今後も広報、ホームページ等で、できるだけ分かりやすく情報を発信していきますので、色々ご意見をいただきたいと思っています。

### 全力投球

福生市長 加藤育男

消防団出初式にて

携帯電話で市政情報を提供　サービスメニュー→行政→「テレモ自治体情報・マイタウン福生市」